

- 問1 関東地方の地形的な特徴を説明した次の文のうち、空欄にあてはまる山脈の名称を答えなさい。「関東平野の北西側の境界付近には（ ）が位置しており、この山脈が冬の湿った季節風を遮る壁のような役割を果たすことで、関東地方の冬の気候に大きな影響を与えている。」
(2020年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 越後山脈 | 2. 赤石山脈 | 3. 奥羽山脈 | 4. 阿武隈高地 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問2 日本の国土利用において、関西国際空港のような人工島の建設に用いられる手法の特徴を説明したものとして、正しいものはどれですか。
(2017年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|--|
| 1. 浅瀬を堤防で囲い、ポンプなどで内部の水を排出して水底を露出させる。 | 2. 海や湖の一部に土砂を投入し、水面よりも高い高度を持つ陸地を形成する。 | 3. 地震などによる地殻変動によって、かつて海底だった場所が海面上に現れる。 | 4. 河川が山地から平地へ出る場所に、上流から運ばれた砂礫が堆積して形成される。 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|--|
- 問3 都市部などの交通量が多い地域において、鉄道と道路の交差部分を踏切ではなく「立体交差」にする主な目的として、最も適切なものはどれか。
(2024年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 線路の敷設面積を最小限に抑え、土地の有効活用を図るため | 2. 交通渋滞を解消し、踏切事故を防止して安全性を高めるため | 3. 地形図上での表記を簡略化し、地図の視認性を向上させるため | 4. 列車の運行速度を落とすことで、周辺住民への騒音を軽減するため |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
- 問4 日本の河川が持つ「距離が短く、傾斜が急である」という地形的特徴が、人々の生活や防災、産業に与えている影響として、最も適切な記述はどれですか。
(2020年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 雨が降っても水位の変化が緩やかであるため、古くから大規模な船舶による内陸輸送が発達してきた。 | 2. 傾斜の急さを利用した水力発電に適している一方で、大雨が降ると短時間で一気に増水し、洪水を引き起こしやすい。 | 3. 上流から運ばれる土砂が非常に少ないため、河口付近に三角州や平野が形成されることは稀である。 | 4. 一年を通じて水量が豊富で安定しているため、ダムを作らなくても渇水被害が起こることはほとんどない。 |
|---|--|--|---|
- 問5 山地から平地や盆地へ川が流れ出る場所で見られる、川の流れが緩やかになることで運搬された土砂が堆積して形成された扇形の地形を何といいますか。
(2021年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 三角州 | 2. 台地 | 3. 氾濫原 | 4. 扇状地 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問6 近年、都市部では集中豪雨の際に下水管内の空気が圧縮され、マンホールから水が噴き出す「都市型洪水」が課題となっています。この対策として、京都市などで導入されている「雨庭（あめにわ）」の仕組みとして最も適切な説明はどれですか。
(2024年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 下水管の中にフィルターを設置し、雨水に含まれるゴミを取り除いてから川へ流す速度を速める。 | 2. 雨水をすべて地下の巨大なタンクに密閉し、災害時の生活用水として利用するために貯蔵する。 | 3. 降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくりと地下へ浸透させることで下水道への負荷を軽減する。 | 4. 住宅地の景観を整えるための装飾として、雨水を好む植物を植えることで都市の気温上昇を抑える。 |
|---|--|--|--|
- 問7 「自然災害伝承碑」という地図記号が持つ役割や特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。
(2024年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大規模な災害に備えて、食料や飲料水などの備蓄品が保管されている自治体の施設の場所を示している。 | 2. 過去に起きた津波や火山災害などの状況や教訓を記した石碑の場所を示し、防災に役立てる。 | 3. ハザードマップに基づき、将来発生する可能性が高い浸水域を予測して地図上に示したものである。 | 4. 災害が発生した際に、周辺の住民が一時的に避難するための公園や学校などの場所を示している。 |
|--|---|--|---|
- 問8 日本海側の鳥取市、瀬戸内側の高松市、太平洋側の高知市の3地点における年降水量の統計を比較すると、高松市の降水量が他の2地点に比べて顕著に少ないことがわかります。高松市でこのような統計結果が出る理由として正しいものはどれですか。
(2018年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 瀬戸内海は周囲を陸地に囲まれているため、外洋からの湿った空気が一切入ってこないから。 | 2. 対馬海流が日本海側を通るため、瀬戸内海側では海水の蒸発による雲の発達が起こらないから。 | 3. 季節風が中国山地や四国山地を越える際に水分を失い、乾いた空気がもたらされるから。 | 4. 高松市は平地が広く、上昇気流が発生しにくいいため、季節風が吹いても雨雲が形成されないから。 |
|---|--|---|--|
- 問9 長野県諏訪市などの内陸部で見られる「中央高地の気候」は、1年を通した降水量が少なく、冬の寒さが厳しいという特徴があります。このような気候特性が生じる理由として、地形の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。
(2025年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|--|
| 1. 緯度が高いため、一年中シベリア高気圧の勢力下に置かれているため。 | 2. 周囲を高い山々に囲まれており、海からの湿った空気が入り込みにくいため。 | 3. 標高が低く平坦な土地が広がっているため、季節風が常に吹き抜けるため。 | 4. 日本海を流れる暖流の影響を強く受け、冬に大量の水蒸気が供給されるため。 |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|--|
- 問10 静岡県などに見られる太平洋側の気候において、雨温図上で夏の降水量が多くなる主な要因は何ですか。
(2021年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------|---------------------|----------------------|-------------------------|
| 1. 冬に北西から吹く湿った季節風の影響 | 2. 年間を通じて吹く強い偏西風の影響 | 3. 夏に南東から吹く湿った季節風の影響 | 4. シベリア高気圧から吹き出す冷たい風の影響 |
|----------------------|---------------------|----------------------|-------------------------|
- 問11 日本の河川の「流路が短く、傾斜が急である」という特色が、人々の生活や防災に与える影響として、背景を含めて正しく述べているものはどれですか。
(2017年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 河川の傾斜が急であるため、土砂が運ばれにくく、下流域に平野や三角州が形成されることはない。 | 2. 大雨が降ると短時間で洪水が発生する危険がある一方、急流を活かした水力発電に利用されてきた。 | 3. 一度に大量の水が流れることはないため、渇水対策よりも土砂崩れ対策が優先される傾向にある。 | 4. 水の流れが常に一定で緩やかであるため、大規模な堤防を築く必要がなく、水上交通が発達した。 |
|--|--|---|---|
- 問12 新潟県の上越市や福井県、京都府の舞鶴市などの統計に見られる、日本海側の気候に共通する特徴的なデータ傾向はどれですか。
(2023年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 夏の期間に降水量が集中し、冬の月別降水量は50mmを下回るほど乾燥した状態が続く。 | 2. 1月の平均気温が氷点下10度を下回り、年間を通じて降水量の変化がほとんど見られない。 | 3. 12月から2月にかけての月別降水量が、6月から8月の月別降水量と同等か、それ以上に多くなる。 | 4. 年間の降水量が1000mm以下と非常に少なく、1月でも平均気温が15度を超えるほど温暖である。 |
|--|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 越後山脈	関東平野の北西に位置し、新潟県（越後）との県境付近に連なる山脈は越後山脈です。この地理的な位置関係により、冬の季節風が遮られ、関東地方では「からっ風」と呼ばれる乾燥した風が吹くようになります。奥羽山脈は東北地方を南北に貫く山脈であり、赤石山脈は南アルプスとも呼ばれる長野・山梨・静岡にまたがる山脈です。
問2	答え 2 海や湖の一部に土砂を投入し、水面よりも高い高度を持つ陸地を形成する。	関西国際空港は、海を埋め立てて作られた「埋立地」の上に位置しています。埋立地は土砂を積み上げて物理的に地盤を高くする手法であり、干拓（水を抜く手法）や自然地形（扇状地など）とは成り立ちが異なります。都市近郊の沿岸部では、ごみ処理の最終処分場や、空港、港湾施設といった大規模なインフラを整備するために、このような人工的な土地利用が進められてきました。
問3	答え 2 交通渋滞を解消し、踏切事故を防止して安全性を高めるため	踏切は列車の通過待ちによる交通渋滞の原因となりやすく、特に都市部では「開かずの踏切」が大きな社会問題となります。道路と鉄道を立体交差化（道路が上、または鉄道が上）することで、車両や歩行者の流れを止めずにスムーズな通行が可能になり、同時に踏切内での事故リスクを無くすことができます。これにより、地域の利便性と安全性が大きく向上します。
問4	答え 2 傾斜の急さを利用した水力発電に適している一方で、大雨が降ると短時間で一気に増水し、洪水を引き起こしやすい。	日本の河川は急流であるため、水が高いところから低いところへ落ちる力を利用する水力発電には有利な条件を備えています。しかしその反面、山地に降った雨が短時間で一気に下流へと流れ下るため、梅雨や台風の時期には急激に水位が上昇し、水害が発生しやすいというリスクを抱えています。この性質は、日本の河川管理において堤防の整備やダムによる流量調節が重視される大きな理由となっています。
問5	答え 4 扇状地	山間部から平地に出る地点は、急に傾斜が緩やかになる場所です。ここで川が土砂を運ぶ力を失うことで、山地を出口とする扇のような形の堆積地形が作られます。山梨県の甲府盆地などは、この地形が発達していることで有名です。
問6	答え 3 降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくりと地下へ浸透させることで下水道への負荷を軽減する。	都市部では地面の多くがアスファルトで覆われているため、雨水が地中に浸透せず一気に下水道へ流れ込みます。雨庭は、植物や土壌を利用して雨水を一時的に貯め（貯留）、ゆっくりと地面に染み込ませる（浸透）機能を持っています。これにより、下水管に急激な負担がかかるのを防ぎ、マンホールの噴出や浸水被害を抑制する役割を果たしています。
問7	答え 2 過去に起きた津波や火山災害などの状況や教訓を記した石碑の場所を示し、防災に役立てる。	自然災害伝承碑は、先人が経験した大規模な自然災害の被災状況や避難の教訓を記した石碑などの場所を示す地図記号です。地図上でこれらの位置を確認することで、その土地で過去にどのような災害が起きたのかを正しく知り、土地の成り立ちや災害リスクを理解して避難行動に繋げることが期待されています。避難場所や備蓄倉庫などを示す記号とは役割が異なります。
問8	答え 3 季節風が中国山地や四国山地を越える際に水分を失い、乾いた空気がもたらされるから。	日本海側の鳥取市は冬の北西季節風の影響で降水量が多くなり、太平洋側の高知市は夏の南東季節風や台風の影響で降水量が多くなります。これに対し、その中間に位置する高松市（瀬戸内）は、二つの高い山地によって季節風が運ぶ湿気が遮られるため、どの季節も他の2地点に比べて降水量が少なくなります。この乾燥した気候を利用して、かつては塩田による塩作りが盛んに行われていました。
問9	答え 2 周囲を高い山々に囲まれており、海からの湿った空気が入り込みにくいから。	中央高地は、日本アルプスなどの高い山々に囲まれた盆地が多いため、季節風が運んでくる湿った空気が山を越える際に雨や雪として落ちてしまい、内部には乾いた空気が流れ込みます。その結果、年間降水量が少なくなります。また、内陸部は海の影響を受けにくいから、夏と冬の気温差（年較差）や、昼と夜の気温差（日較差）が大きくなるのが特徴です。
問10	答え 3 夏に南東から吹く湿った季節風の影響	太平洋側では、夏に小笠原気圧（太平洋高気圧）から南東の湿った季節風が吹き込むため、梅雨や台風の影響と重なって夏から秋にかけての降水量が多くなります。一方、冬は山を越えた乾燥した風が吹くため、晴天の日が多く降水量は少なくなります。
問11	答え 2 大雨が降ると短時間で洪水が発生する危険がある一方、急流を活かした水力発電に利用されてきた。	急傾斜で流速が速いという日本の河川の特徴は、災害面では「短時間で水位上昇による洪水リスク」をもたらします。しかし、その高低差と水の勢いを利用することで、古くから水力発電が行われるなど、自然条件をエネルギー資源として活用する背景にもなっています。
問12	答え 3 12月から2月にかけての月別降水量が、6月から8月の月別降水量と同等か、それ以上に多くなる。	日本海側の気候の最大の特徴は、冬季の降水量が多いことです。一般的に日本の多くの地域では梅雨や台風の影響で夏から秋にかけて降水量が増えますが、日本海側では冬の季節風による雪の影響で、12月や1月の降水量が夏場の降水量を上回る逆転現象や、年間を通じて降水量が多い傾向が見られます。